

# 幼児後期の「教育」機能充実につながる保育者研修

—愛知県東海市における5年間の研修講師の経験から—

本山 ひふみ

## Training to play a large part to preschool education for the childcare person

—The childcare person training In Aichi Tokai-city nursery school for five years—

Hifumi MOTOYAMA

In Aichi Tokai-city, childcare persons have studied together a day in summer season. I was asked to teach them how to play a large part to preschool education. It passed 5 years to teach them from the start.

So I thought what and how to teach them. I decided to blend a lecture and an exercise. I told them both theory and my experiences in kindergarten and in nursery school. Then they read practical cases or recorded daily happenings. After they thought by themselves, they talked with a few members. And they spoke their opinions each other.

As a result, they could reconsider about their daily practice and change their planning point of view.

### はじめに

平成13年度に厚生省子育て体験の研究チームの一員として、愛知県下の10市町村から子育て体験を伴う子育て支援のあり方を調査する機会を得た<sup>1)</sup>。その際、東海市の当時の担当部署であった児童福祉課にもお邪魔し、指導保育士の先生から子育て体験の状況をお聞きしたのだが、引き続き話が発展し、次年度の保育士研修を1日担当してもらえないかとの依頼を受けた。

私自身は幼稚園教育現場から保育者養成校に移った翌年(平成12年)に、木曾川町(現在は一宮市)で町立保育所保育士の「絵本を保育に取り込む」研究に携わったことが、この東海市の依頼を受けた段階では唯一の経験であった。その後、平成15、16年度に清洲町(現在は清須市)でやはり町立保育所の「家庭連携」と「保育を見直す」の研究の助言を務めた内容はすでに昨年度の紀要で報告した<sup>2)</sup>。

振り返って考えてみると、私が勤めていた公立幼稚園では、事例を通した園内の研修も、また勤続年数に応じた数年ごとの園外の継続研修も、他の公立学校と合同の自主的な研修の場なども、豊

富に用意されていたので、様々な学びの機会を活用することができた。しかし、東海市の話を知っていると、保育士研修の機会は、この夏季の1日研修以外には、ごく少ないことがわかった。

現職保育士の研修、しかも公立園の保育士は勤続年数も長く経験豊富である。その方々にわざわざ保育を抜けて集まっていたのだから、時間を無駄にしてはいけぬ、何かつかむもののある1日にしなければならない、それが私にかかっている、と思うと、構えずにはいられない。本研究では、自分なりに工夫し、試行錯誤してきたこの東海市におけるその後5年に及ぶ研修講師の経験をまとめて、振り返り、次に生かしたいと思う。

## 1. 研究方法

依頼を受けた夏季1日研修の内容は、指導保育士が保育士の実態を捉えて、毎年設定したテーマに沿って、午前は、私なりに事例を踏まえた講話を行う。午後は、演習内容を決めておき、あらかじめ印刷した用紙に、参加者自身の考えや、参加者同士の話し合いの結果を書いて提出させる。

各年の経過をまとめ、その結果から、保育士に必要な研修内容について考察する。

## 2. 研究内容

### (1) 2002年8月20日実施 テーマ「社会性と生活習慣」

1) 対象 副主任保育士21名

2) 講話内容 私が出会った生活習慣にまつわる事例を通して問題提起を行った。

生活習慣の指導は、何のためにするのだろうか。その行動ができるようになる、身につくことに留まらず、その習慣を通して自己の生活をさらに充実させ、他者との関係をより良くすることを目指して、指導に当たる必要がある。

3) 使用事例

4歳女児 家業の都合で午睡が必要なため、友達と遊べず苦しむ生活

5歳男児 園内の出会い頭事故から知恵を絞って安全生活意識の向上

5歳女児 場面緘黙が次第に回復し、食事への欲求を唇の動きで表現

5歳女児 他児のおもちゃ片付けはできても自分の遊びが不安定な様子

4) 演習内容

実践例「ぼく、使わなかった<sup>3)</sup>」(4歳児10月)を読んで

自己演習

①この保育者と自分とはどう違うか

②この保育者は日頃どんなことを大切に考えて保育しているか

③この場面での保育者の意図は何か

生活習慣の指導と社会性の発達とは別々のものとして捉えがらであった。皆が気持ちよく生活するためにルールが存在することを、実体験を踏まえて感じさせることが大切であろう。

グループ演習 (3人1組)

①この先どんな保育の展開が考えられるか

②片付けの指導における保育者の姿勢についてまとめ、発表する

保育者は幼児ひとりひとりの体験をもとに話し合っ、価値観を共有する役目をもつ。その中では、保育者がモデルとなって進んで行動し方法を示したり、幼児が使いやすく片付けやすい環境構成を心がけたりする必要がある。

5) 研修成果

各参加者の報告書やグループ演習の発表から、生活習慣の指導は、食事・排泄といった基本的な生活習慣であっても単に「できる」ことだけでよとするのではなく、自己の充実、他者とのより良い関係作りにつながるものであると再認識できたようだ。片付けをはじめとする社会的な生活習慣の指導では、グループ演習を通してより一層、幼児が他者との関係性において自己の行動を考えていくことを念頭に置いた、保育者の関わりが求められていると実感することができたように思う。

(2) 2003年8月5日実施 テーマ「子どもの活動と保育者の意図(1)」

1) 対象 中堅保育士(経験6~10年)、副主任保育士(経験15~30年) 計20名

2) 講話内容 子ども自身の伸びようとする部分を伸ばすことが大切である  
子どもの活動と保育者の意図のズレを例示して考える

3) 使用事例

5歳男児 1年前に狼役をやった辛さから、今度の劇での泥棒役は嫌だと申し出

5歳男児 意地悪と欲張りの違いに気付いて、役のおもしろさを知り競って熟演

5歳男児 水着の担任となら楽しいプール遊びも、短パンの副担任とは苦痛

5歳女児 保育者が扱うOHPへの興味から始まった映画館ごっこ

5歳女児 既成の腕人形を使って4歳児に見せようとする人形劇

4) 演習内容

実践例「宅急便<sup>3)</sup>」(5歳児6月)を読んで

自己演習

①この頃子どもたちに対する保育者の願いは?

②保育者の予測した活動は?

③実際に子どもたちの生み出した活動は?

④その活動の中で子どもたちがした経験は?

グループ演習(3~4人1組)

上記4点について討議し、出された意見をまとめて発表する

5) 研修成果

まず自己演習で実践例の解釈を自分なりに整理したうえで、3~4人のグループで討議したが、保育者の意図とは違った展開になりかけた時、柔軟に受け止めて対応する保育者の存在があったことが、その後の活発な活動を生み出したことに気づいていった。年長児に内在する遊びを展開する力の大きさを実感できたようであった。

(3) 2004年8月20日実施 テーマ「子どもの活動と保育者の意図(2)」

- 1) 対象 中堅保育士 15名
- 2) 講話内容 幼児後期の興味・関心に基づく継続的な遊び  
保育者による意図的な環境構成  
指導案を書くことの意味
- 3) 使用事例  
4歳児から5歳児にかけての人形の扱い方・捕らえ方の変容  
5歳男児 担任が作ったペープサートで遊ぶうちに自分で製作、役割分担  
5歳女児 自分でかいた山をOHPで写してその前で登る表現遊び  
5歳女児 皆の経験画を担任が順に見せたことで始まった紙芝居作り
- 4) 演習内容「ロッカー前での自己主張」(3歳10月)

「ブロックの取り合い」(5歳5月)の事例を読んで

自己演習(2例それぞれに)

- ① 幼児の行動を保育者はどう受け止めているか
- ② 幼児に対する保育者の意図と関わり方

グループ演習(話し合った成果を発表する)

この実践例をあげた保育者と共に事例検討会ををするとして、事例に登場する4人の幼児の気持ちを汲み取ってみる。4人は保育者がどうかかわってくれたら納得できるのかを考えていく。

5) 研修成果

参加者は、実践例に出てくる保育者と同じようにかかわりがちな自分を意識化できたようであった。保育者がある子に対して抱いている願いを、ストレートにぶつけても幼児の気持ちとはかみ合わない場合もあることが、グループ討議を経て理解されたようであった。保育者の専門性の一つとして「幼児の立場に立って考える、物事を見る」という観点を持つならば、保育者からある対応を受けた時の幼児の心の中を想像する必要がある。そしてどういう対応が幼児の心に響くのかを考えた上で、保育者の言動を決めていく大切さに気づいていった。

(4) 2005年8月9日実施 テーマ「計画・実践・反省の関連性を生かして」

- 1) 対象 中堅保育士 20名
- 2) 講話内容 指導計画と保育実践の循環性  
評価・反省の必要性  
週日案の活用
- 3) 使用資料 参加者があらかじめ提出した7月中ごろの週日案を使用
- 4) 演習内容 指定された付与条件の中で、計画立案してみる
- 5) 研修成果 「評価反省」欄の記入のポイント、前週の「反省」と次週の「子どもの姿」の関連などが具体的に理解できたようであった。また、主活動以外の活動を記

録に残していなかったため、そこで何を楽しんでいるのかといった子どもの姿をつかみきれていない書き方になっていたことにも気付いていった。

(5) 2006年8月4日実施 テーマ「指導的立場で“指導案”を読み取るには」

- 1) 対象 主任保育士 22名
- 2) 講話内容 何のために指導案を書くのか  
何を手がかりに指導案を書くのか  
どんな視点から書くのか  
助言するときの伝え方、聞き取り方  
「週・日指導計画」用紙の各欄の書き分け
- 3) 使用事例 参加者は、事前に3グループに分かれて、それぞれが持ち寄った勤務園の担任保育士の指導案を基に、主任の立場として自分が指導案をどう指導したかについて話し合っていた。その報告書を踏まえて、疑問点について指導案の補足説明をしてもらう。
- 4) 演習内容 指定した指導案3種を使って、3人で相談して修正していく。「子どもの姿」「ねらい・内容」「子どもの活動」「環境と援助」「指導内容」「評価反省」のうち、割り当てられた箇所の修正案を発表する。
- 5) 研修成果 あらかじめ提出された指導案や報告書を踏まえて、講話を行ったことで、参加者は具体性を感じ、担任保育士の指導に当たってもやもやしていた点にも自信を持って指導できる心持ちになったようだ。また、主任として、各保育士の思いを引き出したり熟考を促したりする大切さも気付いていった。

(6) 2006年8月28日実施 テーマ「“環境の構成”から指導案を考える」

- 1) 対象 中堅保育士 21名
- 2) 講話内容 指導計画における“環境の構成”の位置  
週日案における書き分け  
送付いただいた週日案を見て感じたこと
- 3) 使用事例 保育実践ビデオから“環境の構成”を読み取る
- 4) 演習内容 上記5歳児11月のビデオ<sup>4)</sup>を視聴後、参加者が映像から読み取った環境構成について、「人的環境」「物的環境」「空間的環境」「時間的環境」に分けて整理した。特に、「時間的環境」については、一日の中で、自分から遊びに入るきっかけをつかんだり、区切りを付けて集まったりできるだけの時間的余裕の大切さに気付いていった。また、ひとつの遊びが、だんだん形を変えたり、仲間が増えたりしながら、継続していくためには、保育者側に時間的な計画性が必要なことも理解された。
- 5) 研修成果 参加者は、保育者の願いの表現として「ねらい」をしっかりと立て、それを「環境構成」という形で具現化し、「子どもの活動」につなげていくことの大切さ

を感じ取った。また、「子どもの姿」に始まり「評価反省」までを一連の流れのあるものとして捉え、その中で「環境構成」を考えることが理解できたようである。

## まとめ

保育所保育士は、乳児をはじめとする生活面の援助（いわゆる「養護」）には、豊富な知識と経験を持つが、幼児後期を担当する可能性が低い。また、大半の保育所は1学年1学級であるために、多様な幼児の姿を観察する機会は少なく、さらに同学年保育者間で幼児理解のために話し合う機会も時間も持ちにくい。保育者研修を引き受けるに当たって気付いたこれら保育所の特徴を踏まえて、私に可能な研修指導のあり方を試行錯誤していった。

東海市における保育士研修では、平成14年から18年の夏季の1日研修において、講義と演習をおこなった。対象は年によって変るが、中堅以上の保育士で、テーマは「社会性と生活習慣」、「子どもの活動と保育者の意図」、「計画・実践・反省の関連性を生かして」「指導的立場で“指導案”を読み取るとは」「“環境の構成”から指導案を考える」と移っていった。

講義では、これまでの幼稚園での自分の実践や他の保育士研修での事例から、参加者が幼児後期の育ちのイメージをつかめるように具体的に進めていった。また演習では、講義と有効に絡み合うことを重点に、保育実践の例をもとに参加者同士が話し合ったり、各自が持ち寄った週日案を講義に基づいて見直したりしていった。その結果、自分の保育を捕らえ直したり、立案の観点を変えたりすることにつながった。

さいごに、愛知県東海市役所こども課（平成18年度からは子育て支援課）指導保育士でありました岩間康子先生、引き継がれました深川小夜子先生により、私に研修講師の機会を与えていただきましたことを感謝申し上げます。

## 参考文献

- 1) 沼田裕之ら,(2002):地域における子育て体験についての調査研究,平成13年度児童環境づくり等総合調査研究事業報告書
- 2) 本山ひふみ,(2006):幼児教育への理解を深める保育者研修のあり方,鈴鹿国際大学短期大学部紀要第26巻
- 3) 民秋言ら,(2000):「改訂 保育内容総論」,萌文書林
- 4) 岩波映像株式会社,(1998):岩波保育ビデオシリーズ「わすれてできる?」,岩波映像株式会社